令和6年能登半島地震における

DMAT活動報告

令和６年１月１日に発生した能登半島地震により犠牲になられた方々に深い哀悼の意を捧げるとともに、ご遺族の方々や被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

DMAT について

今回の災害に際し、医療チームである全国の DMAT（Disaster Medical Assistance Team）が大きな役割を果たしました。DMAT は災害時に現場で医療活動を行うために、専門的なトレーニングを受けた医師、看護師、および医療関連職員で構成されるチームです。主に現地の医療支援を行うことを目的としています。

今回の震災において、桐生厚生総合病院からも厚生労働省 DMAT 事務局の要請に応じて DMAT 隊５名(医師１名､看護師２名､業務調整員２名)が派遣されました。また被災地に赴かなかった DMAT 隊員は、後方支援部隊として資器材準備や情報収集などを担い、５名のサポートを行いました。

能登半島地震における活動について

DMAT 活動拠点本部（公立能登総合病院内）へ派遣され､DMAT 本部支援､避難所のスクリーニング・アセスメント、被災者の診療などのミッションを行いました。避難者の状況や避難所の環境について調査し、被災者・避難所のニーズの把握や環境整備を提言、必要な支援や物資を本部に要請し、以後の DMAT 活動、地域の医療支援に必要な情報を収集・報告を行いました。

それぞれの隊員に印象に残ったこと

隊員１ 被災された方のほとんどが気丈に振る舞われていました。感情の裏側を考えるととても心苦しく、言葉に詰まる事もありました。今回の経験を活かし、自己研鑽に努めていきたいと思います。

隊員２ 避難所を巡回する中で、近所の人達と集会所に集まって生活している被災者達がいました。震災で気分が落ち込む方々から、トランプや体操を取り入れるなどで徐々に笑顔が戻ってきたとのお話しを聞くことが出来ました。顔なじみや付き合いのある人達だから分かる気持ちのサインに気づき、考え、対応している事に感心し、地域の身近な人達が助け合う共助の大切さを感じました。

２月２０日、DMAT 事務局より、石川県以外の DMAT 活動の終了の通達がありました。

１月１日の発災直後より資器材の準備等で DMAT 隊員の活動は始まりました。１月３日、DMAT 事務局から派遣要請が入り、１月４日に出発、後方支援の DMAT 隊員をはじめ、多くの関係者の方々にお手伝いを頂き、今回の活動を無事完了することが出来ました。ありがとうございました。能登での活動の中で、ご高齢の方々のご苦労、大変さがズンと身に沁みて伝わってきました。振り返って桐生・みどり地区をみると、山地に接し、様々な社会福祉施設を擁しているなど奥能登と同じような特徴を有している事が分かります。災害拠点病院、DMAT としての重責を感じながら、日頃からの準備･活動を行っております。